

1. 自己評価及び外部評価結果

平成22年2月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3770300329
法人名	医療法人社団五色会
事業所名	グループホームたまもよし
所在地	香川県坂出市加茂町194番地1 (電話)0877-48-3300

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成21年11月30日
評価決定日	平成22年2月1日

【情報提供票より】(21年10月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年12月19日
ユニット数	1ユニット
利用定員数計	9人
職員数	9人
常勤	9人
非常勤	0人
常勤換算	6.53人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2階建ての1階～2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000円	その他の経費(月額)	9,000円+実費	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,100円				

(4)利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	65歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人五色台病院
---------	-----------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに対して、尊厳を尊重して、ゆったりと対応できている。また、得意分野を引き出す事に努め、利用者が、行きたい時に合わせて行動するように配慮している。職員の配置も、介護関係の施設で、認知症高齢者の経験をし、他のスタッフとの交流も気軽にできるので、利用者が生き活きと生活できるように支援している。また、職員間の連携を深めるように、食事会を実施したりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

家庭的な雰囲気の中で利用者の尊厳を重視し、全職員で話し合いその人らしくゆったりと自由に生活が送れる介護計画を作成している。得意分野の書道、音楽等をクラブ活動に取り入れ作品をホールに展示している。職員は熟練者が多く笑顔でいきいきと楽しく接し利用者の安心につながっている。併設の老健施設と医療連携、防火訓練、また、鍵をかけないホームの安全面の協力体制も確保されている。地域の方が気軽にお花や野菜を届けてくれたり、地域の行事、保育園児、ボランティア、各地区の介護相談員等と交流を深められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の理念とともに、地域の中で暮らしていけるように支援している。職員は、利用者の目線で考えていけるように話し合っている。	法人の理念5項目を掲示し、職員間は朝礼で話し合い、利用者目線でチェックし日々のケア実践に活かしている。ホーム独自の理念は作っていない。	法人理念を基に、「たまもよし」独自の理念をつくり全職員が共有しケアサービスに取り組まれることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭や加茂保育園の夏祭りに参加したり、ボランティアの方と交流を増やせるように努めています。	地域の方が気軽にお花や野菜を届けてくれたり、地域や保育所の行事に参加している。ホームの敬老会に園児の躍りやボランティアの方(大正琴)が訪問し交流している。市介護課の依頼で市各地区の介護相談員が隔月に訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の対応や実践したことなどを、運営推進会議で話し合ったりして、サービス向上に向けて取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、自己評価や外部評価の結果などを、話合った意見を率直に受け止め、サービス向上に取り組んでいます。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、司会にはホーム長がしている。参加者からの具体的な意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夏祭りに参加していただいたり、要望の相談をしながら、協力関係を築くようにしています。	市介護課、地域包括支援センターの職員にホームの夏祭りに参加してもらっている。担当者とはその都度相談や連絡を取り、また、市担当者の要望にも協力的に応じ、よい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を一か月に1回実施し、職員も利用者一人ひとりの癖や傾向をつかみ、見守りや連携ができています。	身体拘束防止委員会、勉強会は併設の老健施設職員と合同で取り組んでいる。日中玄関は開放しているが施設職員との連携により利用者の安全につながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で、高齢者虐待防止に関する理解を深め、遵守に向けた取り組みができています。		

グループホームたまもよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要なケースは余りなく、職員間で話し合う機会は少ないが、必要があれば支援して行くように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者本位の理念とともに、地域の中で暮らしていけるように支援している。将来のことを含めて、疑問等を引き出し、十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で話し合う機会がありますが、家族の要望や意見が少ないため、活発に実施したいと考えている。	運営推進会議や面会時に声かけ、話しやすい雰囲気作りをし意見や要望を聴いている。意見・要望は職員間で話し合い、運営に反映している。家族の意見要望を気軽に話しあえる場として、家族会立ち上げに前向きに取り組んでいる。	前向きに検討している家族会の立ち上げを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングノートを活用し、随時話し合いを行い、工夫している。職員の気づきやアイデアを、運営にすぐに取り組むように努めている。	職員とミーティングを行い、気づきやアイデアを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の機会を、段階に応じて、なるべく多くの職員に受講できるようにしている。また、勉強会等で発表してもらい、研修資料等を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業等で、同業者との交流の機会があり、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		

グループホームたまもよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の気持ちを受け止め、安心して過ごしていただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について、ゆっくり話を聞き、ニーズに対応できるように、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを大切にし、必要なサービスにつなげるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野を、発揮してもらい、ともに過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を伝え、良い関係を築いて行けるための支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の場所へドライブに出かけたりして、関係の継続に努めている。	利用者の知人や友人が面会に来られたり、馴染みの場所へドライブに出かけている。老健施設の(毎週金曜日)訪問散髪も利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲の善し悪しに配慮し、孤立してしまわないように、支援をしている。		

グループホームたまもよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、経過を見守ったり、相談の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声をかけ、それとなく確認したり、ご家族から情報を得たりしている。	日々の関わりの中で、言葉や行動表情から把握するよう努めている。思いや意向のわからない時は家族から情報を得たりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者本人からお聞きしている。また、ご家族の力を借りながら、継続的に、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを把握して、できる力を暮らしの中で、発見できるように、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、思いや意見を聴き、繁栄させるように、努めている。	利用者・家族の要望を取り入れ職員カンファレンスや3カ月ごとにアセスメント、モニタリングを行い計画担当者と話合って介護計画を作成している。利用者・家族に確認サインをもらっている。また、追加要望も聴いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、職員間で情報の共有に努めている。帰宅要求のある利用者には、専用のノートを作成したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により、臨機応変に対応している。通院や送迎の支援も柔軟に対応している。		

グループホームたまもよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や朗読などのボランティアに来ていただいたりして、地域の人の力を借りて支援できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診できるように支援している。	利用者・家族が希望する医療機関へ受診できるよう支援している。受診介助は基本的には家族がしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に、利用者が身体状態の変化があった時、伝えるべきポイントを理解して、連携を行えるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、混乱が生じないように、本人の情報や特徴を伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、随時意見を確認しながら、医療機関と密に連携を図り、対応している。終末期に関して、事業所として、「行うこと、行わないこと」の項目を確認している。	入所時から利用者・家族の意向を聞き、医療機関や職員と連携をとり、安心して過ごせるよう取り組んでいる。終末期に関して、家族、医師、職員とその都度話し合い、職員は方針を共有し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しているが、定期的な訓練が行えるようにする必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、併設の老人保健施設と合同で消防の避難訓練をおこなっている。他の災害についても、訓練ができるようにしたいと考えている。	毎月、併設の老人保健施設と合同で防火訓練を行っている。訓練内容は昼間・夜間想定、放水訓練等を月単位で計画している。利用者も避難訓練に参加している。災害マニュアルを作成し職員間で共有しているが、ホーム独自の防火訓練は実施していない。	ホーム独自の防火訓練、また、地域との協力体制が築ける体制づくりに期待したい。

グループホームたまもよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重し、自尊心を傷つけないように対応している。	利用者の尊厳を尊重し、自尊心を傷つけない対応をしている。記録等個人情報の取り扱いについても職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が決める場面を作り、支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れを大切に、その中で一人ひとりのペースに合わせた対応を、心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てる支援をしている。衣類の汚れ等は、プライドを守り、さりげなく支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、片付け等を、利用者と共に、前向きにやってみたいと言う気持ちを引き出すように声かけしている。	食事は併設の老人保健施設から盛り付けたものが届いている。ホームでは畑で収穫した野菜を食材に利用している。利用者は職員と一緒に後片付けをしている。利用者の安全を配慮しながら職員も一緒に食事を楽しむ取り組みに期待したい。	衛生、安全面を配慮しながら、ホームで月1回でも利用者と一緒に準備や食事、片付けができるように職員も検討中なので、前向きに取り組むことに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックし、むせたり、飲み込みが悪くないか、気をつけている。一人ひとりの好みに応じた食事をできる限り、したいと考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声かけや見守りをし、出来ない方は、職員が介助している。		

グループホームたまもよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子などを察知し、手をさしのべたり、介助をしている。トイレでの排泄を大切にして、一人ひとりに合わせて対応している。	排泄チェック表を作成している。利用者の様子を察知し、できるだけオムツを使わずトイレでの排泄を大切に自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、散歩など適度な運動をしてもったり、積極的に取り組んでいる。食事のバランス・薬の調整も、個々に合わせて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望に応じて、声かけ・誘導など個別に対応している。	利用者一人ひとりのその日の希望に合わせて入浴の支援をしている。嫌がる利用者には、タイミングに合わせて声かけ誘導し入浴、洗髪をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が安心して、休息できるように日中の活動を促したり、生活リズムを整えるように支援をしている。眠剤を飲まれている方には、日中の活動の妨げになっていないか、確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を行い、職員は薬の内容について、把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野(畑仕事・ピアノなど)で、一人ひとりの力を発揮してもらえるように、仕事を頼んだり、感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、時間の取れる限り、外出の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行きたい人・ドライブに行きたい人など、随時、希望に添えるように外出を支援している。	天候や利用者の希望に沿って買物、ドライブ、神社へ散歩に出かける支援をしている。	

グループホームたまもよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を持っている方もいますが、管理が困難な方には、買い物をするときに所持してもらい、支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方は、本人が好きな時に使用してもらっている。設置場所も、離れているためプライバシーの配慮もできている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花など、家族の方や職員が持ってきてくれたりしている。	ホールに利用者がクラブ活動で書いた書道を展示したり、手作りカレンダーや作品を飾っている。季節のお花や水槽で元気よく泳ぐメダカ、職員が持ってきた亀を飼うなど生活感や季節感をとりいれて居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどを置き、少人数でもくつろげるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品物や写真などが持ち込まれ、利用者の安らぎが感じられるように、家族に協力してもらいながら、配慮している。	利用者の思いでの写真を飾ったり、使い慣れた椅子が持ち込まれ、安全と安らぎのある生活が送れるよう配慮している。各居室にトイレを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、流すボタンやゴミを捨てる場所などに、目印を付けて自立した生活ができるように配慮している。職員も、混乱や失敗がないように、話し合い対応している。		